



芸術活動への関心を深め
地域の魅力を再発見する機会にも

むつ市役所川内庁舎 所長 二本柳 茂さん



むつ市

AIR In Mutsukawauchi
(滞在型地域連携アートプロジェクトむつ川内)

◎事業名

芸術に触れる機会づくりと
地域の活性化に向けた取り組み

美術館がないむつ市で、市民への芸術作品に触れる機会を提供を目的に始まった本事業。域外の学生との交流を通じて地域を活性化したい川内地区の思いと合致し、川内庁舎がアトリエとして実施されることになりました。「毎年3名の学生さんに、それぞれ下北各地のスケッチ画3〜4点と、川内の自然をモチーフとした大型作品1点を制作してもらいます。完成した作品は、一定期間、川内庁舎に展示します。3カ年継続すれば、大型作品9点、スケッチ画約30点が展示されることとなります」。

2年目となる令和元年度、学生たちは8月上旬に一週間ほど川内地区に滞在し、作品の題材探しなどを行い、9月1日からの20日間、市民ホールで制作を行いました。

学生を親しく迎え入れ
住民も元気に

「制作期間中は、住民がふらっと来ては話しかけたり、のぞきこんだり。1000号なん



〈事業主体名〉

むつ市

〈事業年度〉

平成30・令和元年度

〈助成金使用項目〉

- 招聘学生の滞在費、交通費
- 作品展示費用
- 地域ふれあい活動 他

〈連絡先〉

むつ市川内庁舎管理課

〒039-5201 むつ市川内町川内477

TEL：0175-42-2111

ていう大きな作品の制作過程を見たことがありませんから、興味津々の様子でした。学生たちは、説明を求められれば嫌がらずに手を止めて説明もしてくれる。学生の一人は、『自販機でジュースを買って来てくれたり、差し入れをくれたり、温かく迎え入れてくれたことがうれしかった』と話していました。全国にいろいろなAIR（アーティスト・イン・レジデンス）の事例がありますが、芸術家と住民の間に距離があるものが多いのです。ここでは本当に交流し、ふれあいながら制作が進められています」。

制作の間には、住民との交流会や小学校での美術教室の機会も設けられました。「うまく描く必要はない。色使いに決まりはない。感じた色を使いなさい」と指導を受け、子供たちの絵が目に見えて変わりました。休み時間には、全校の児童と遊んでもらいましたし、学校のホールで一緒に食事会もしました。最後に、子供たちが書いた作文を手渡され、学生もうれしそうでした。大人たちも、交流会をきっかけに、川内八幡宮の例大祭でお酒をふるまうなど、素晴らしい交流がで

きたと思います。

例大祭の日、以前参加した学生が、すでに大学院を修了しているのに、再び川内を訪れてくれたと、うれしそうに話す二本柳さん。「今後は、地域の住民にもさまざまな事業に参加してもらえよう、より深い交流に向けた展開方法を検討したいと思います」。

(左上) 川内庁舎市民ホールで制作を進める学生
(左下) アートスクールで小学生が作った行灯
(右下) 小学校でのアートスクールの様子

